

ため町への通報はないが、臭いがあるので事業所と話をしたところ、汚水処理の段階で気温が著しく高いと、まれに微生物への酸素不足が生じて臭いが発生することもあるとのことだった。

町内5か所の橋のたもとで、北海道が年4回水質検査を実施しており、すべての観測地点において基準値で推移している。水質検査の結果が著しく異常な場合、町に連絡があるが、改善命令等の行政権限は知事のため、北海道との連携を密にしていきたい。

公営住宅の建設計画

安田 薫議員

公営住宅の建設計画は、財政難だけで計画ができないのか。計画できないことであれば、別の施策等があるか伺いたい。

住む所が中心街にできれば、高齢者は徒歩での生

活空間ができる。車を使わない利点等もあり、住みよいまちづくりにも好条件になると考えるがいかがか。

民間業者等の応援を得る等、安心・安全な高齢者向けの公営住宅建設を町の中心部に計画してはどうか。

高薄町長

公営住宅の建設計画は、平成15年度より現在まで凍結している。

これから高齢者が増加していくなかで、中心市街地に公営住宅が必要だと



町の公営住宅は老朽化が目立ってきており、今後に向けて計画的な建設計画が求められる。

認識しているが、今の段階では、マスタープランの変更も含め、もうしばらく本町の財政推移をみなければならぬ。

別の施策としては、民間に共同住宅を建設してもらい、それを町が一括して借り上げするなどを考えていきたい。

高齢者雇用の充実

安田 薫議員

団塊の世代が退職期を迎える今、元気な60歳代の人々が活躍できる社会の実現こそ、町が発展できる大きな鍵になるであろう。意欲と能力がある限り、いつまでも働ける社会の実現へ向けて、高齢者雇用の充実についての考えを伺う。

本町のシルバー人材センターの会員数はどのくらいか。また、町の施設で同センターに委託している業種はどのようなものがあるか。町として補助金

を出しているうえで連携もしっかりとする必要があり、と思うので、それらの点について伺う。

高薄町長

60代の退職した方が働ける場をどのように構築していくかは、十勝北西部通年雇用促進協議会を立ち上げ、国や道の事業を取り入れながら、通年雇用を進めていく協議をしている。

シルバー人材センターの会員数は、町では把握していない。町が同センターに委託しているのは、役場退行後の管理や公有地の草刈等、約40件程度である。

新公会計の整備推進状況は

奥秋康子議員

これまでの官庁会計は現金主義で、与えられた予算をその年度内にきちんと使いきったかを議会に報告することであった。3年後には企業会計の手法

を導入した会計制度が始まり、住民にわかりやすく公表することになる。固定資産台帳の作成、資産の評価、貸借対照表等、どう仕分けをしていくか、職員がどれほど理解できているかが重要になると思うが、新公会計制度を町長はどう受け止められているのか。

財務諸表4表に通曉した職員はいるのか。それに向けての職員教育の必要性をどう考えているか。

高薄町長

新公会計制度は、資産やコストの情報を含めた財政状況を公表することに、類似町村、特定分野の比較・検討・特徴が見られる、遊休資産を把握することによって活用促進が図られるなどの効果がある。

職員の理解度は少ないが、財政や特別会計を担当している職員もおり、職員でできる部分は職員でやっていくため、教育が必要になる。

河川敷地の払い下げ

奥秋康子議員

農地の中にある河川敷地等、農家が長年かけて整備してきた土地でも、売買、賃貸する場合等は除外され支障が生じている。今後国や町が利用する見込みのない河川敷地等は、適正に農地の流動化を推進すべく、農地行政を積極的に行うべきと考えるがいかがか。

町は国から払い下げを受けた河川敷地があるが、面積と資産評価は、また、賃借料はどのようになっているのか。

一方、受益者負担で測量までしたが、払い下げにならず、毎年賃借料を払い続けている農家との公平性について伺う。

高薄町長

河川敷地は、地方分権一括法により法定外公共物として管理は地方自治事務と位置づけられ、本町も